

## 第4学年 体育科の実践

### 1 単元名 「ソフトバレーボール」(全8時間 本時7時間目)

### 2 単元目標

基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動することができる。(知・技)  
規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだり、考えたことを友だちに伝えようとしたりしている。(思・判・表)  
運動に進んで取り組み、規則を守って運動したり、勝敗を受け入れたり、友だちの考えを認めたり、場や用具の安全に気づいたりすることができる。(主体的に学びに向かう力)

### 3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題 「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり  
ブロックテーマ・・・「追及する力、仲間と支え合う自分」  
・自分の問題をとことん追求する姿 ・仲間と協働して追及する姿

### 4 単元と指導

#### <聴く・話すについて>

年度当初から、ひびき合うためには、まず話をきくことがスタートになると考え、「目できく」「考えてきく(自分と比べながらきく)」「訊く(質問する)」ということを経段的に繰り返し指導してきた。また、本校の研究で大事にしている「4つの力」(じっくりと考える力、話を聴く力、伝える力、人と関わる力)をクラスで振り返った際、「人に伝える力」が、自己評価が一番低い項目だった。そのため、考えを伝える経験を多く積めるよう、日々ペア・グループでの交流、教室を自由に動き回りながら複数人と交流などを意識して取り入れてきた。人前で話すことに対して、苦手意識をもっている児童は多いが、少しずつ多くの人の前で考えを伝えてみようとする姿が増えてきている。体育の学習では、チーム内では、それぞれの考えを尊重し取り組もうとする様子が見られる。しかし、勝敗に関わる部分になると、相手チームに対して冷静に話を聞くことができずに、自分たちの意見を押し通してしまいセルフジャッジをすることが難しいことがある。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

関わり合いでは、日々、多くの人と話す機会を設けることを意識し、ペア・グループ交流、条件を付けた全体交流などを行ってきた。その積み重ねもあって、「4つの力」をクラスで振り返った際、「人と関わる力」が、自己評価が一番高い項目だった。体育科では、ラグビー、ティールボール、サッカーの学習を行ってきた。ラグビーでは、攻める、守る場面を分けて試合を行った。試合前に、チームの時間を確保し、どうやって攻めたり、守ったりするかなどを考えてきた。ティールボールでは、クラスを4チームに分け、2コートで学習を行った。試合前のチームの時間では、打つ順番、守る位置などを考えて試合に取り組んだ。また、学習を通じて、みんなが楽しめるルールになるように、始めのルールを修正したり、追加したりして、よりよいルールになることを目指し話し合っ決めて経験を積み重ねてきた。サッカーでは、4人対4人で試合を行ってきた。試合を重ねるに連れて、誰がどこにいたほうがよいかを話し合っ、ポジションを考えて試合に臨む姿も見られるようになってきた。

#### <単元について>

中学年のEゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成されている。学習指導要領には、「主として、規則を工夫したり作戦をえらんだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。」と記載されている。また、低学年のゲームの学習を踏まえ、中学年ではゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに基本的にボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められている。中でも、中学年のネット型ゲームで扱われるソフトバレーボールの一般的特性は、「ネットを挟んで、相手チーム自チームに分かれ、主として手でレシーブ・トス・スパイクをして得点を競い合うことが楽しい運動である。」とされている。本校の体育科の年間計画では、ソフトバレーボールが4年生と5年生の学習に位置付けられている。よって、初めてネット型ゲームを学習する単元となる。

#### <指導について>

小学校学習指導要領の体育科の目標では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライ

フを実現するための資質・能力を育成することを目指す」となっている。「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ためには、運動することの楽しさや運動そのものがもつ楽しさを感じる事が重要になると考える。そのため、「児童がその運動をどう捉えているか」という学ぶ側の視点に立った学習展開を心がけていく。

まず、学習前に、アンケートを実施し、児童のソフトバレーボールの経験、児童がソフトバレーのどの部分に楽しさや魅力を感じているか、どの部分に不安や怖さを感じているかを把握する。そして、アンケート結果をもとに、児童がその運動をどう捉えているか（子どもから見た運動の特性）を整理する。特に児童が感じている不安や怖さを取り除けるよう、学習の方法や場づくり、簡単なルール、使用する道具などを考え学習展開を構想していく。アンケートを実施した結果、学習経験では、なかよし班活動の中で、風船バレーをして遊んだ経験がある子、全くやったことがない子がいる状況で、全員がソフトバレーボールの学習経験ないことが分かった。また、「ルールが分からない」、「何をすればよいか分からない」、「ボールが体に当たると痛い。」などに不安や怖さを感じていることも分かった。そのため、使用するボールは、ボールが当たってもあまり痛くなく、ラリーが続きやすくなるようにソフトバレーボール（50グラム）を使用する。また、ネットの高さは150cmにし、コートのはきは、バドミントンコートを使用する。さらに、自分の役割が明確になり、作戦やフォーメーションを考えやすくなるように、3人対3人の試合方法（時間制）で行うようにする。そして、必要に応じて、運動の楽しさにふれられるよう、ルールの追加や修正、使用する道具の変更などを話し合いで随時行っていく。

単元の流れとしては、ソフトバレーボールの学習経験がないので、単元の初めや各授業の初めにボールに触れる機会を多く位置づけていく。遊びやゲームを通じて、ボールを扱う感覚やボールを持っていないときの動きを養っていく。その際に、2人組やチームで回数を競う遊びも行っていく。そして、「ネットを使ってラリーをしたい」という気持ちが芽生えてきたときに、ラリーゲームを行うようにする。ラリーゲームとは、1つのミスで得点になってしまうゲームではなく、時間内にチームで協力して何回ラリーが続くかというゲームである。「ラリーが続く楽しさ」を十分に味わった後、「得点を競う試合をしたい。」という児童の気持ちの高まりを見極め、「どうすればボールを相手コートに落とすことができるのか？」という問題を解決していく。そして、「高めてきたチームの力を試したい。」「もう一度、挑戦してみたい。」という気持ちを試す場を設けるようにしていきたい。本時に子どもたちが解決したい問題は、「どうすればボールを相手コートに落とすことができるのかな？」である。本時では、「チームの課題を解決するために、自分の考えを伝えたり、相手の考えを認めたりする姿」をひびき合いの姿とした。

小学校学習指導要領 体育科目標  
 「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その際に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」

単元目標  
 基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動することができる。（知技）  
 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだり、考えたことを友だちに伝えようとしていたりしている。（思判表）  
 運動に進んで取り組み、規則を守って運動したり、勝敗を受け入れたり、友だちの考えを認めたり、場や用具の安全に気づいたりすることができる。（学びに向かう力）

**ソフトバレーボールって、どんなスポーツ？**（アンケート前、朝の時間などで確認）

- ・ネットをはさんでやるスポーツ。 ・ボールを落としてはいけないルールがある。 ・テレビで試合を見たことがあるよ。 ・なかよし班活動で、風船バレーならやったことがあるよ。
- ・やったことがないから、あまり分からないな。 ・この前、世界バレーを見たよ。 ・バレーボールのマンガを読んだことがある。 ・アニメも見たことあるよ。

事前アンケートから…

経験	体育でやったことがある 1人 遊びでやったことがある 21人 やったことがない 10人	遊びでやったことがある人は、なかよし班活動での遊びで、「風船バレー」を経験したことがあるという回答した子が多かった。 学習でのソフトバレーの経験はなく、習い事でバレーボールを経験している、経験していた子は居ない。
印象	とても好き 6人 好き 11人	<b>どんなところが楽しいと感じているか？</b> 跳ね返すとき、アタック、トス、打つのが楽しい、ぎりぎりを守るのが楽しい チームの連携、みんなでできること、ボールをとばす、パスすること 床に落とさないところ、ハラハラする感じ など
	きれい 12人 とてもきれい 3人	<b>どんなところがきれいと感じているか？</b> ルールが分からない、顔などにボールが当たる、当たったら痛そう、ネットに届かなうところ、手が痛くなること、ボールが来ないと暇だから 上手いかわなかったとき せめられそうなど
技能	トス、ブロック、レシーブ、サーブなど専門的な用語を使って回答した子が5名程度。 ほとんどの子は、ボールを上にあげる、跳ね返す、パスをする などのような動きをするかのイメージはできるが専門用語は分からない様子。 また、やったことがないので、分からない、できなさそうなどが7名程度。	
楽しみ 不安 要望	とても楽しみ 10人 楽しみ 12人 楽しみではない 7人 とても楽しみではない 3人	<b>ルールについて</b> 最初は、簡単なルールでやりたい。得意でなくても楽しめるようにしたい。 <b>用具について</b> 運動会で使った軽いボールがいい。ボールが当たって痛そう。けがが怖い。コートは、どうするのか？ネットに届くか心配。 <b>チームについて</b> チーム分けがどうなるのか不安。チームを平等にしてほしい。

**アンケート結果を見て…（クラスでも共有）**

- ・やったことがない人が多い。 ・うまくできるか不安な人がいる。 ・チームで協力できるか心配な人もいる。 ・仲間に責められるのが嫌。
- ・運動会で使ったボールなら、こわくなさそう。 ・ボールに慣れたい。 ・ルールを知りたい。 ・どう動けばいいかわからない。

**使用するボール**  
 ソフトバレーボール（50g）  
**コート（3コート）**  
**ネットの高さ**  
 150+80cm  
 ※必要に応じてコートを調節する  
**コートの広さ**  
 約縦12m 約横6m  
 ※ラインは、養生テープをはる  
 ※必要に応じてコートを調節する  
**チーム（6チーム）**  
 5人チーム×2、6人チーム×4

**ソフトバレーボールは、どうやってやるスポーツなのか？①②③**

<色々なボールを使って、ソフトバレーに慣れよう（1人、2人、チーム）>

- 1人でボールに慣れる（レシーブ、トスなど何回落とさずにできるか）
- 2人でボールに慣れる（向き合ってパス、カゴコンでボールキャッチゲーム、ボールインゲーム（レシーブ、トス、レシーブ&トス）、ボード当てゲーム）
- ・まず、風船でやってみよう。 ・時間内に何回連続かな。 ・声をかけあうといいかもしれない。 ・上にあげると続くよ。 **ボールを見るのが大事。**
- ・運動会で使ったボールでもやってみよう。 ・軽いボールでやりやすい。 ・軽いボールだとどこかに行ってしまふ。 ・ひざを曲げ伸ばしするといい。
- ・思ったところにとばなくて難しい。 ・ソフトバレーボールは、風船より難しいな。 ・どうすれば、落とさないようにできるかな。
- ・トスは指先を使うといい。 ・手を丸めるとやりやすい。 ・お母さんが手でおにぎりを作るといいって言っていたよ
- ・ボールは、山盛りごはんみたいな形にしてつなごう。 ・相手を思ってやさしくパスする。 ・高すぎない低すぎないパスがよい（平和な感じ）
- チームでボールに慣れる（列になってパス、三角形になって、円になってパス）
- ・落ちるところに、動いていけば落とさないようにできそう。 ・ネットを使って、落とさないでできるか試してみたい。

**ラリーチャレンジ**

- どうすればボールを落とさずに続けられるかな？**  
**ラリーを続けるには、どうすればいいのかな？④⑤⑥⑦（本時）** <ねらい1>いろいろなチームと対戦をして**ラリーゲーム**を楽しもう
- <ネットを使ってソフトバレーボールに慣れよう> ※3校時に実施予定だったもの学習内容を4校時に実施
- ・何回でネットの反対側に返せるかな。 ・ネットにあたってしまふ。 ・レシーブとトスを使い分けるといい。 ・きりを考えるとよい
  - ・どうすれば、ラリーが続くかな。 ・次の人のことを考えて、パスしたほうがいいな。 ・何回ラリーが続くかな。
  - ・続くようになってきた。 ・試合をしてみたいな。 ・どんなルールで試合をするといいかな
  - ・ラリーが続かない。 ・もっと上手になりたい。 ・作戦を考えるといいかもしれない。 ・声をかけあうといいと思う。 ・役割分担をしたほうがいい。
  - ・チームで練習する時間が欲しい。 ・フォーメーションも考えてみよう。 ・より楽しむために、ルールを修正・追加したい。
  - ・練習方法やコツを知りたい。 ・手本になる資料を見てみたい。 ・人数を増やしてやりたい。 ・ボールを相手コートに落とすことも楽しみたい。
  - ・キャッチを試してみたい。 ・キャッチはしなくてよいと思う

**ラリーチャレンジ**  
**ラリーゲームルール**

- ・相手と協力してラリーが何回連続するかを数える
- ・前後半4分
- ・チーム内同士でのゲーム
- ・3人対3人で試合をする
- ・3人と3人で行う 4人と4人で行う
- ・サーブは下投げで届くところから
- ・チームで交互にサーブする
- ・返球回数は3回以内
- ・連続でさわることはできない
- ・前後半の最高記録の合計を数える

**どうすればボールを相手コートに落とすことができるのかな？⑦（本時）⑧** <ねらい2>作戦などを考え工夫して対戦を楽しもう

- ・1人1人の得意なことは何か。 ・誰が主にレシーブ、トス、アタックするかを決めてみよう。
- ・フォーメーションは、〇〇してみよう。 ・前1人、後ろ2人（三角形） ・前2人、後ろ1人（逆三角形） ・ダイヤの形でやろう
- ・〇〇作戦で攻めよう、守ってみよう。 ・声かえ合う作戦はどうだろう。 ・あせらず、とにかく返すことを目指そうよ。
- ・ねらってスパイクするようにしてみよう。 ・あえて弱く打つふりをしてみようか。 ・サーブは〇〇をねらってみよう。
- ・選んだ作戦がうまくいった。 ・次は、〇〇してみよう。
- ・うまくいかなかった、どうすればよいか考えよう。 ・もう一度、練習してみよう。

**ゲームのルール**

- ・3人対3人 4人対4人で試合をする
- ・前半、後半4分間
- ・前後半で交代
- ・セルフジャッジで行う
- ・判定に迷ったらじゃんけん
- ・返球回数は、3〜5回 3回
- ・アタックなし？ ブロックなし？
- ・連続で2回はさわれない
- ・サーブ
- ・コート内で下から投げ入れる
- ・交互に行う チーム内で順番に行う
- ・サーブの得点なし やり直しあり 2回
- ※必要に応じて、話し合ってルールの修正や追加をしていく

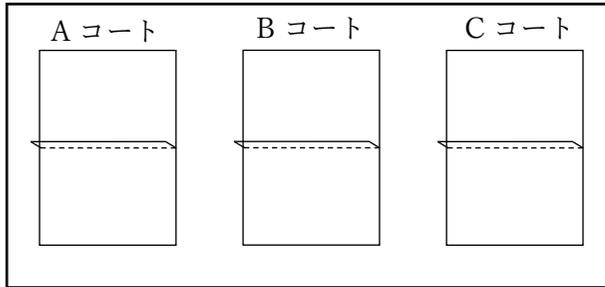
E ボール運動（高学年） ネット型 ソフトバレーボール 年間学習計画（5年）  
 <知識技能> ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること。  
 <思考判断表現> ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えること。  
 <学びに向かう力> 運動に積極的に取り組み、ルールを守り合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全を使ったりすること。

E 球技（中学校） ア ゴール型、イ ネット型、ウ ベースボール型  
 中学校1、2年生は、ア、イ、ウの3つを履修、3年生は、3つの中から2つ選択  
 <知識技能> ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防をすること。  
 <思考判断表現> 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。  
 <学びに向かう力> 球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、作戦などについて話し合いに参加すること、一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

6 本時について

- (1) 本時目標 チームの課題を解決するために、自分の考えを伝えたり、相手の考えを認めたりしている【思考・判断・表現】  
 (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>1、準備・確認（3分）                      協力して、用具の準備をする。対戦チーム・コートを確認する。準備運動をし、体の調子確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうすればボールを相手コートに落とすことができるのかな？</p> </div> <p>2、チームの時間①（2分）                      めあてや作戦、ポジションなど確認など。</p> <p>3、ゲーム1（前半4分 後半4分）                      チームでできる攻め方・守り方を生かしてゲームをする。                      審判はセルフジャッジで行う。</p> <p>4、チームの時間②（7分）                      ・ゲーム1をふり返って自分たちに必要な練習をしたり、ポジションや作戦を考えたりする。</p> <p>5、ゲーム2（前半4分 後半4分）                      ゲーム1と同じ相手チームとゲームをする。                      「チームの時間」で話し合ったことや練習したことを生かしてゲームをする。                      審判はセルフジャッジで行う。</p> <p>6、振り返り（個人、チーム）（5分）                      学習カードに記入する。チームでの振り返りをする。</p> <p>7、全体での振り返り（3分）                      上手くいったことや困ったことなどを共有する</p> <p>8、片付け（3分）                      協力して片付けを行う。</p>	<p>○安全に用具の準備を行えるようにする。その後、場の安全を確認する。                      ○対戦相手やコートが確認できるようにする。</p> <p>○ゲームを見ている児童を中心に声をかけ、チームの時間での話し合いに視点をもてるようにする。（焦点化）</p> <p>○前時までにはチームワークが乱れていたり、本時で負けていたりするチームを中心に支援をする。（教師の出場）（焦点化）</p> <p>○チームの時間での話し合いや練習をうまく生かしているところを認め、励ます。</p> <p>○作戦ボードを準備し話し合いの内容を可視化し共有できるようにする。</p> <p>○チームや個人で工夫したところやうまくいったことを交流したりよい姿を紹介したりする。（必要に応じて）</p> <p>チームの課題を解決するために、自分の考えを伝えたり、相手の考えを認めたりしている【思考・判断・表現】</p>



## 7 実践を終えて

### <単元を通して>

#### ・単元構想について

単元構想を作成する前に、事前アンケートを実施し、この結果をもとに児童の実態を考えながら、学習の流れを考えた。学習が始まる際、簡単にアンケート結果をまとめたもの（経験している人があまりいないことやルールや使用する道具への不安など）を中心について児童と共有した。また、授業の終末や学習カードで出てきた児童の不安や悩み（学習方法やルールなど）を取り上げ話し合ってきた。これらによって、クラスで運動を楽しみ、自分たちでよりよい学習にしていこうという意欲をもつことができた。

### <成果>

#### ○学習に必要な動きに慣れる工夫

レシーブ、トスなどの動きを自然と身につけられるように、学習の初めでかごを使って動きやボールに慣れる時間を確保した。かごにボールを入れるとことを意識することで、力任せでうたないようになっていった。また、ボールをかごに入れるために、落下地点に入れるようになっていった。その都度、「どうすれば上手くいきそう？」と投げかけることで、考えながら取り組んだり、学習カードにこつを記述したりする子が増えた。そして、そのときにでたキーワード（手はおにぎり、やさしさのあるボール、山盛りごはんなど）を意識してラリーゲームを行うことができた。

#### ○単元構想の修正

児童のつぶやきや学習カードの記述などから、悩みや困り感を話題にすることで、みんなが楽しめるように学習方法やルールなどをその都度よりよりものにしていくことができた。ソフトバレーボールの学習以前からも行ってきたので、自分たちで自分たちの学習をよりよりものにしていくという姿勢が育ってきていると感じられた。

### <課題>

#### △学習内容や時期の検討（年間計画の見直し）

本校の体育科の年間計画では、ソフトバレーボールが4年生と5年生の学習に位置付けられている。よって、初めてネット型ゲームを学習する単元だった。バレーボールの運動の一般的特性から離れないように、ルールや使用する道具を工夫したが、4年生では難しい部分が多かったのではないかと思う。子どもたちと話しながら、ネットの高さ、返球する回数、試合に出場する人数などを話し合いながら修正していったが、なかなかラリーが続かない場面が多くなってしまった。4年生として実施するのであれば、より易しいゲームになる学習内容を検討する必要もあると振り返る。または、実施学年を高学年とし実施することも考えられる。

#### △単元構想の見直し

「どうすればラリーを続けることができるのかな？」という問題から、「どうすれば、相手コートに落とすことができるのかな？」という問題への移行に課題が残った。「ラリーが続かないから、続けられるようにしたい」と切実に思っている児童もいれば、「得点を競い合いたい」と思っている児童もいるなかで、スムーズに移行することができなかつたと感じた。児童がラリーを続ける必要性を感じられるように、ラリーゲームの位置づけを考える必要があった。例えば、試しに得点を競い合うゲームを実施する。すると、ラリーにならないゲームでの競い合いになってしまい、楽しめないことが予想される。そこで、ルールの工夫やラリーゲームの必要性がでるようにするなどの工夫があつたのではないかと考える。

#### △児童の課題と動きの差

児童の課題と動きに大きな開きがあつた。レシーブ、トスなどのコツをつぶやきや学習カードの記述から共有することはできた。しかし、獲得した知識を実際の動きに生かすことが難しかった。「コツを知っているが、できない」という状況から、抜け出す支援や時間の確保が不足していた。動きを客観的に見返すツール（動画や見合う時間など）や時間を位置付けことも意識しなかつた。

## 12/1 体育科

どうすればボールを相手コートに落とすことができるのかな？

どうすればボールを相手コートに入れる(返す)ことができるのかな。

課題を意識した練習をすることによってチームの力が高めようとする姿

- ・学級の雰囲気がいよ。失敗しても責めない。
- ・チームの目標をもって活動できていた。
- ・落ち着いて活動していた。
- ・チームの人数が丁度よい。
- ・技能が全員同じくらいよかった。
- ・セルフジャッジがよかった。
- ・ラリーを続けたことで、技能が高まっていた。
- ・自分たちの課題を理解してめあてを考えられていた。
- ・子どもたち同士で話し合えるとよかった。

- ・負けることで、自分の課題に目が向けられることもある。点数差があまりなかったので、課題を見つける必要性を子どもたちが感じていなかった。
- ・教師の出どころ「上手いかなかったところは？」
- 「続けるためにはどうしたらよい？」全体に向けて問いかけるとよい。
- ・授業の始めで、本時のめあてを確認できるとよい。
- ・練習の大切さに子どもたちが気がつけるように。

ひびき合い

## 12/1 体育科

どうすればボールを相手コートに落とすことができるのかな



(黄色チームはクラス目標まで到達していなかった)

チームの課題を解決するために、自分の考えを伝えたり、相手の考えを認めたりする。⇒ゲームにいかす姿

- ・相手チームで主に攻撃してくる人に気づいたから対策を立てていた。
- 「〇〇と△△だけでやってくるよ」
- 「(二人にとられないように)後ろに返そう」
- ・〇〇だよ、いくよ！という声掛け
- ・「どんなときにレシーブを使えばいいの？」
- 高いときはトス、低いときはレシーブ(ひびき合い)
- ・「勝ちたい」という思い。
- 勝敗にこだわるからこそ話し合う。
- ・チームでの円陣パスが上手だった
- ・ゲームを成り立たせるための土台作りができていた。

- ・本時のチームのめあては技術面か精神面か
- ・チームのめあてと振り返りの一致
- ・試合ではなかなか声が出せなかった
- ⇒試合中に誰がとるのかを明確にすれば(例:得点係をやっている子が声をかける)いいことに気づけなかった。
- ・取れるボールが取れない(子どもの悩み)
- ・全体でのひびきあい
- ⇒見学だった子が他のチームの様子を自分のチームに共有した姿がよかった。
- 「悩みの共有、自分たちだけじゃないんだ。」
- ⇒勝つためのアイデアをいくつか持ち、選択できるようにする。

ひびき合い